

# 人口推計シミュレーション

	合計特殊出生率			移動数	2010年人口	2015年人口	2020年人口	2030年人口	2040年人口	2060年人口
	2015年	2030年	2040年							
独自推計①	1.44	1.8	2.07	現状×2.0 (+約1800人/5年)	38.6万人	38.6万人	38.5万人	37.7万人	36.7万人	34.0万人
独自推計②	1.44	1.8	1.8				38.5万人	37.7万人	36.3万人	32.5万人
独自推計③	1.44	1.656	1.8				38.5万人	37.4万人	35.9万人	32.0万人
独自推計④	1.44	1.8	2.07	現状×1.5 (+約1350人/5年)	38.6万人	38.6万人	38.5万人	37.5万人	36.4万人	33.4万人
独自推計⑤	1.44	1.8	1.8				38.5万人	37.5万人	36.0万人	32.0万人
独自推計⑥	1.44	1.656	1.8				38.4万人	37.2万人	35.6万人	31.4万人
独自推計⑦	1.44	1.8	2.07	現状 (+約900人/5年)	38.6万人	38.6万人	38.4万人	37.3万人	36.2万人	33.0万人
独自推計⑧	1.44	1.8	1.8				38.4万人	37.3万人	35.8万人	31.6万人
独自推計⑨	1.44	1.656	1.8				38.4万人	37.1万人	35.4万人	31.1万人
独自推計⑩	1.44	1.8	2.07	移動ゼロ	38.6万人	38.6万人	38.3万人	37.1万人	35.6万人	32.1万人
独自推計⑪	1.44	1.8	1.8				38.3万人	37.1万人	35.3万人	30.8万人
独自推計⑫	1.44	1.656	1.8				38.3万人	36.8万人	34.9万人	30.3万人
社人研推計	1.43~1.49			+800~ 1200人/5年	38.6万人	38.6万人	38.3万人	36.7万人	34.5万人	29.0万人

※推計人口は千人未満を四捨五入

## 基準人口

※人口推計は、2015年4月1日時点の実績値(386,410人)を基準とする。

## 合計特殊出生率

※2015年の合計特殊出生率は、2010年~2014年の合計特殊出生率の平均値「1.44」とする。

※2030年と2040年の合計特殊出生率は、出生率の上昇を見込んだ予測値である。

以下の3つのパターンでシミュレーション

- ・2030年に「1.8」、2040年に「2.07」
- ・2030年に「1.8」、2040年に「1.8」
- ・2030年に「1.656」、2040年に「1.8」

## 合計特殊出生率による違い

- ・2040年の合計特殊出生率「2.07」と「1.8」を比較すると、2060年時点の人口で1.4~1.5万人程度変わる。
- ・2040年の合計特殊出生率を「1.8」とする場合、2030年時点「1.8」とした場合と「1.656」にした場合を比較すると、2060年時点の人口で0.5万人程度変わる。

## 移動数(社会増減数)

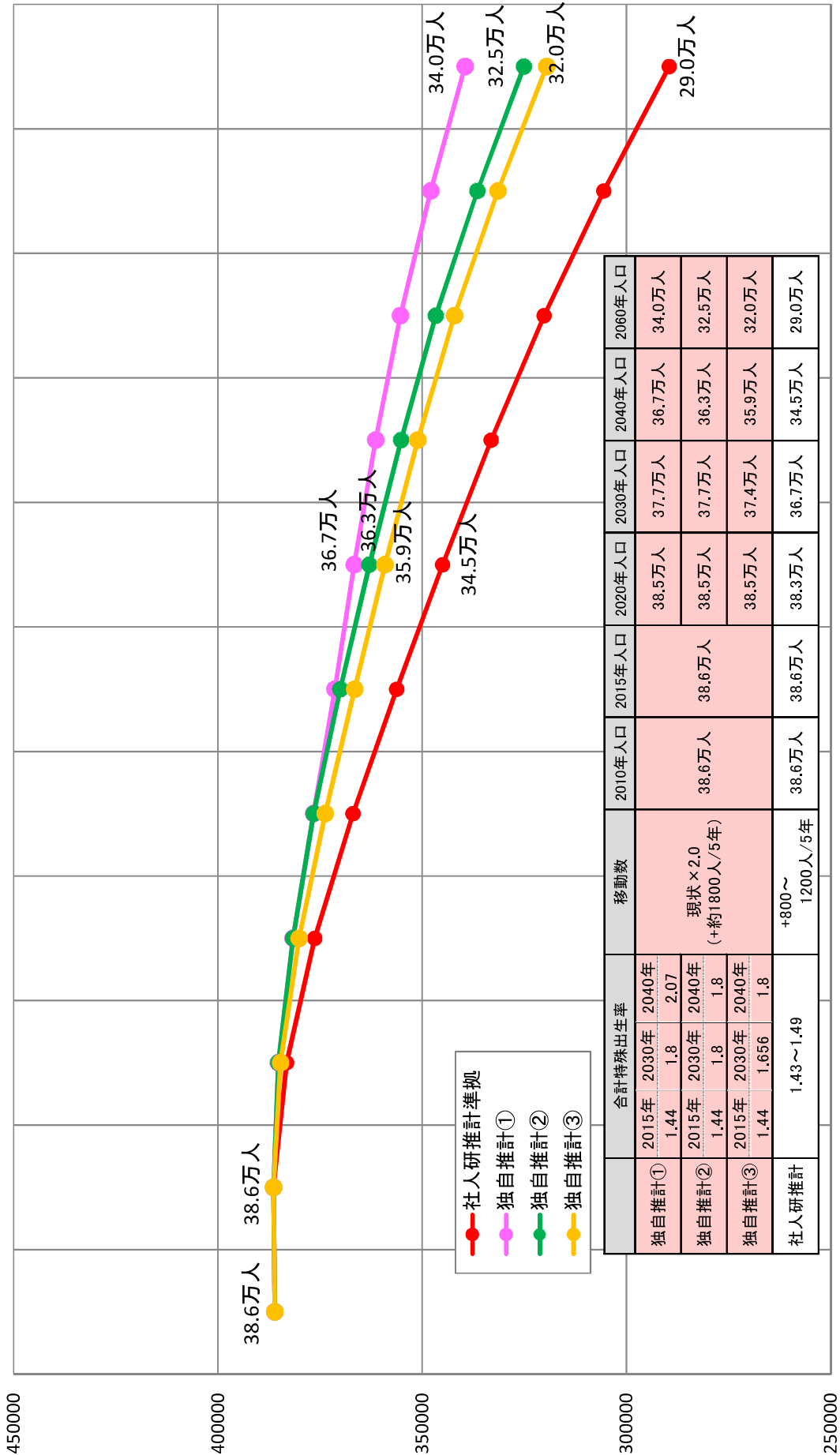
※2010年~2014年の直近5年間の移動数は合計で約900人であり、ほぼ横ばいの状態である。(社会増が続いている。)

※移動数の変化を見込み、現状の2倍、現状の1.5倍、現状のまま、移動がゼロの4パターンをシミュレーションする。

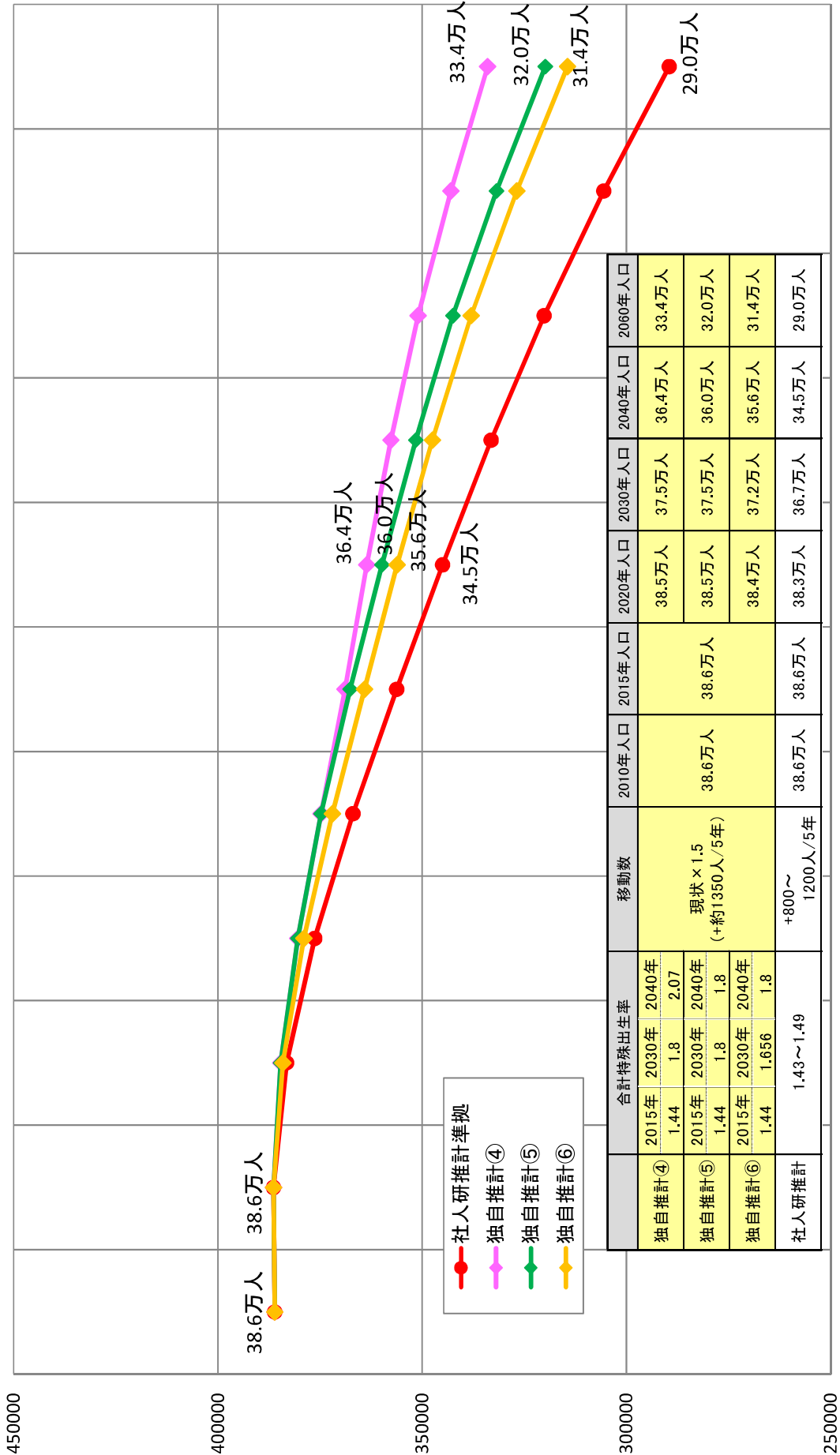
## 移動数による違い

- ・移動数を現状の2.0倍とした場合と1.5倍とした場合を比較すると、2060年時点の人口で、0.5~0.6万人程度変わる。
- ・移動数を現状の1.5倍とした場合と現状のままとする場合を比較すると、2060年時点の人口で、0.3~0.4万人程度変わる。
- ・移動数を現状のままとした場合と移動ゼロとした場合を比較すると、2060年時点の人口で、0.8~0.9万人程度変わる。

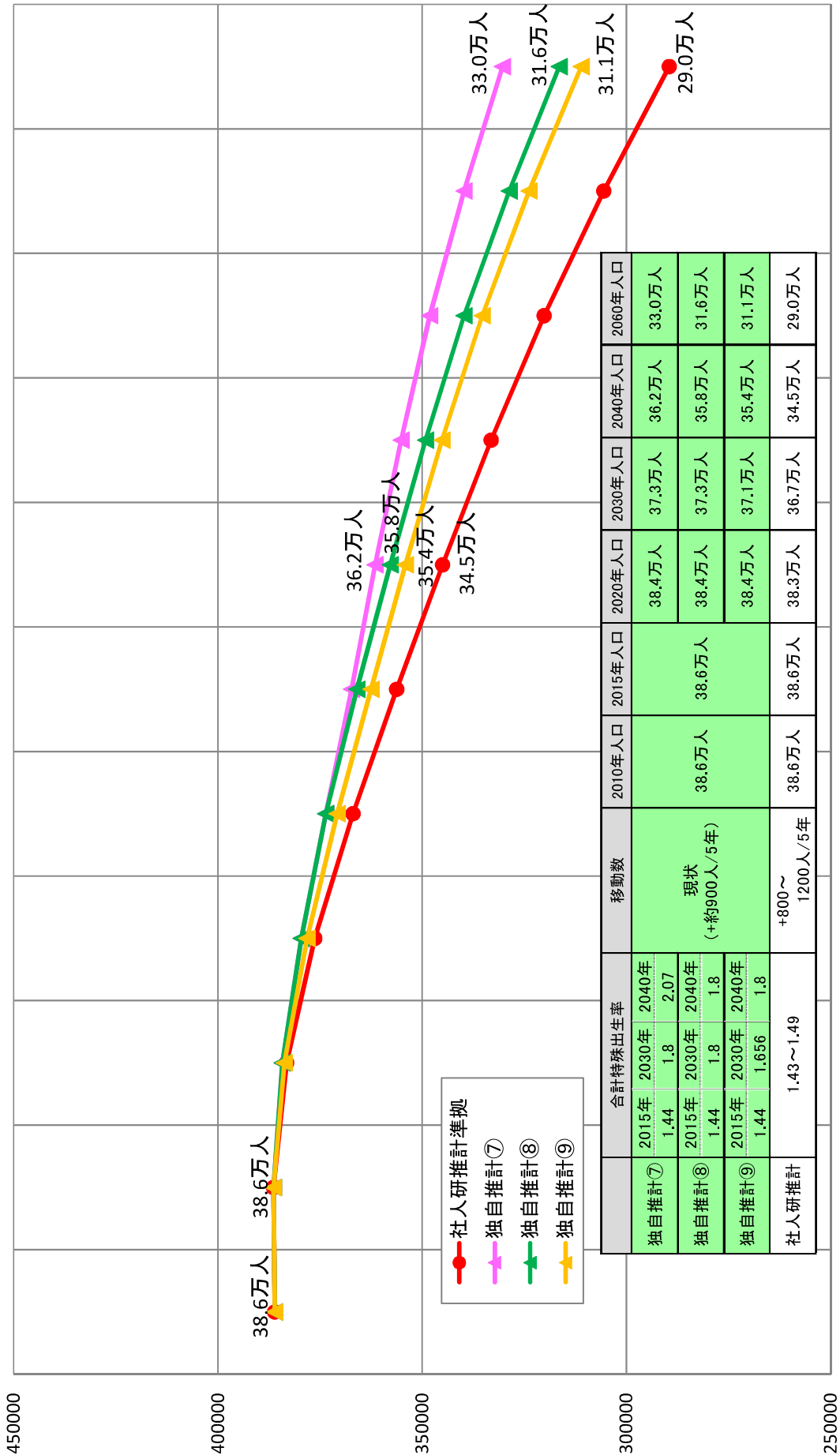
# 一宮市の人口の長期的見通し(出生率による違い) 移動数: 現状 × 2.0



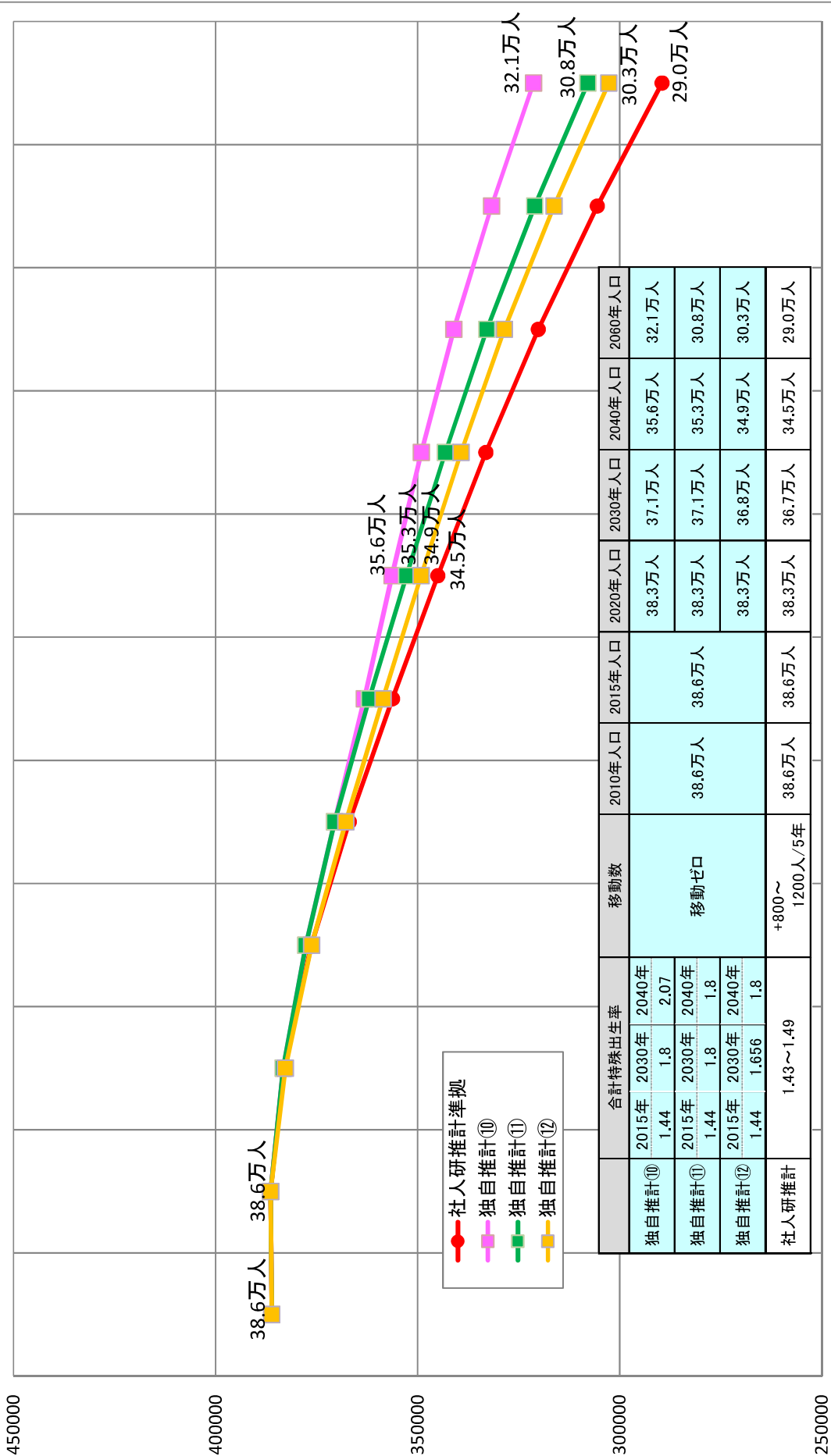
# 一宮市の人口の長期的見通し(出生率による違い) 移動数:現状×1.5



# 一宮市の人口の長期的見通し(出生率による違い) 移動数:現状



# 一宮市の人口の長期的見通し(出生率による違い) 移動ゼロ



# 一宮市の人口の長期的見通し(移動率による違い)出生率固定

